

A-99 近世養生思想展開下における食品食物摂取の動向(カ/報)

和洋女大文家政 松田久子 石川松太郎 筑波大坂戸高 石川尚子

三輪田学園 ○中込みよ子

「その3」—乳幼児・老人を対象に—

目的 「その1」で述べたものと、同じ目的のもとに実施するが、ここでは、各種養生書が成人の病人のみではなく、乳幼児・老人に注目するようになってきた動向に着目し、後着、特に乳幼児の記事内容を検討し、その特徴を分析する。

方法 近世の養生書が、乳幼児や老人の健康にまで配慮し、多くの記事を収めているのは、封建社会の構造的な諸矛盾に基因している。すなわち、庶民、特にその中でも80%を占める農民の生活水準は極端に低くおさえられ、貧窮の状況に追われていた。この為凶年の続いた近世後期の庶民社会では、乳幼児死亡率が高いものとなった。地域によって高い所は、75%にも達したという。(須田至三『飛騨の寺過去帳の研究』) こうした社会情勢に、対峙しつつ、近世の養生書は、乳幼児や老人、特に前者の食品食物の摂取にかかわる記事を豊富に収める結果となったと思われる。この点を配慮しつつ、調査・分析をすすめた。そこで、「その2」であげた養生書をまず取りあげて、乳幼児・老人に効果のあるものとしてすすめている食品食物、又害があるものとして禁止している食品食物を抽出し、その理由や摂取する場合の注意点などに関する記事を分析した。以上の外に、上記の諸点に関し、豊かな記事を収める女子用の教訓書、例えば『女重宝記大成』なども取りあげ、その内容について検討した。

結果 乳幼児・老人についての食品食物摂取動向に、歴史学及び家政学の観点から、興味あるいくつかの結果が得られたと思われるので「その3」として発表する。